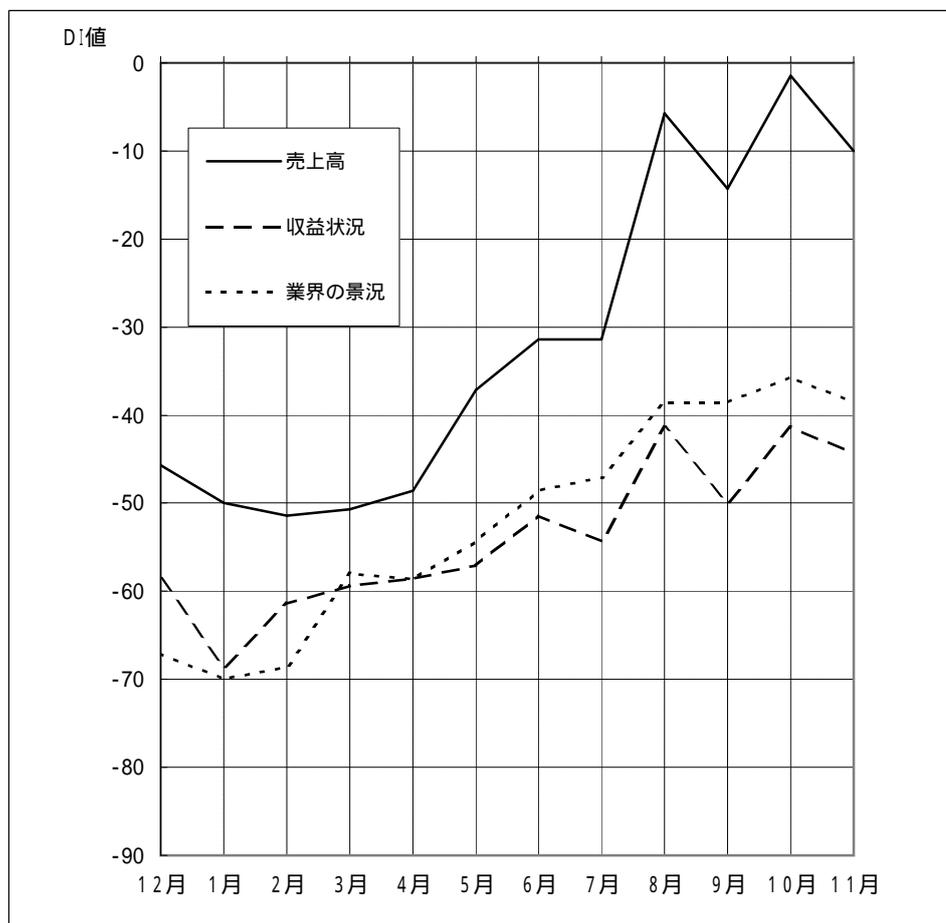


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値 平成14年12月～平成15年11月

単位:ポイント



	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	-45.7	-50.0	-51.4	-50.7	-48.6	-37.1	-31.4	-31.4	-5.7	-14.3	-1.4	-10.0
収益状況	-58.6	-68.6	-61.4	-59.4	-58.6	-57.1	-51.4	-54.3	-41.4	-50.0	-41.4	-44.3
業界の景況	-67.1	-70.0	-68.6	-58.0	-58.6	-54.3	-48.6	-47.1	-38.6	-38.6	-35.7	-38.6

11月のDI値をみると、3項目全てが前月より悪化し、「景況」は前月より2.9ポイントの悪化と、マイナス30%台を継続中。「売上高」は8.6ポイントの悪化でマイナス10%台に、「収益状況」においては2.9ポイント悪化し、マイナス40%台を継続中。ここ3ヶ月の傾向値をみると中小企業の業況は、一進一退の様相である。

業種別の「景況」をみると、前月より製造業では、好転と悪化の割合が減少した分不変とする割合が増えた中で、「食料品」を含めた「一般機器」「電気機器」で悪化とする割合が減少したものの、「食料品」「窯業・土石製品」では好転とする割合も減少。また、非製造業では、不変とする割合が減った分悪化とする割合が増えており、総体的には製造業より景況感が悪く、「小売業」「建設業」「運輸業」で悪化の割合が高くなっている。

組合の特記事項からは、「木材・木製品」「鉄鋼・金属」「一般機器」の一部では受注増加の傾向の報告があったが全体的に製造業では、原材料価格の上昇が受注単価に折り込みにくく厳しい状況が続いている。また、「商店街」「卸・小売業」を含めた非製造業では、個人消費の低迷による売上げの減少によって、厳しい状況が続いている。総体的にも業種を問わず価格競争及びデフレの影響の他、先行きの不透明感を危惧する報告等相変わらず厳しい状況下にあることが窺える。